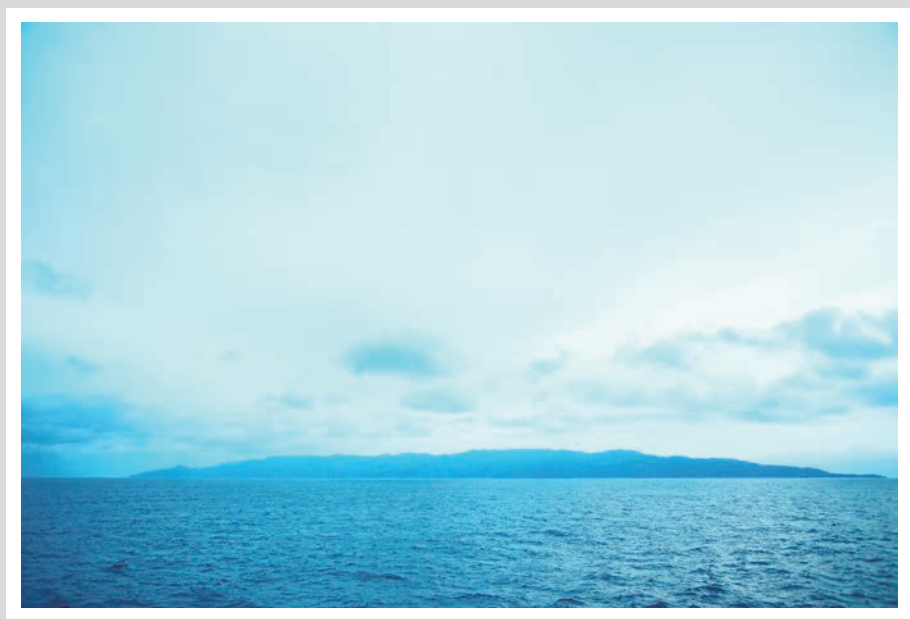


なんでもないこと。

佐渡島

Sado island



佐渡島。

島開きで春がはじまり、
イカ釣り船の漁火で夏を知る。
たわわに実る果実の香りで秋を味わい、
海の恵みに感謝し冬を超える。

自分たちの暮らしに合わせて
必要なものを作ったり、シェアしたり。
季節の隣で、暮らしに向き合い、
大切な人たちと手を取り暮らす、
おだやかで豊かな時間が、ここに 있습니다。





古道具とカフェ 山のねまりや

今日という日は100年後のおとぎ話、
かもしれない。

名もなき器に、どんな歴史の教科書にも載っていない、名もなき物語があると教えてくれた店主が営むのは、週末にだけ営業している、丘の上の一軒家カフェ。歴史と神話とおとぎ話のちょうど真ん中にあるかのような場所。島内から集まってきた古道具と、マクロビオティックの優しい食事が、佐渡との距離を近づけてくれる。

新潟県佐渡市平清水 826-5 [Tel] 090-6625-4022 [営業日時] 金・土曜日のみ 11時～16時 両津港から車で約40分



佐渡汽船

佐渡のはじまり。

アスファルトから離れ、自然の温度を直に感じる海の上に立つ。春風に浮かぶ「ってきます」の声。冬のいたような冷たい風の中に置かれた「ただいま」の声。この海の上で交わされたたくさんの声を想像しながら、「島時間」と自分を調整していく。

両津港：新潟県佐渡市両津湊 353 番地 [Tel] 0259-27-5111
新潟港：新潟県新潟市中央区万代島 9 番 1 号 [Tel] 0252-45-5111



Café ガシマシネマ

そこは、
まるで映画のように始まった。

映画には、魔法や、夢や、挑戦が溢れている。観た人の世界を広げ、次々と新しい扉を開いてくれる力がある。そんな映画の力を借りて島の人たちの背中を押したいと、映画館のない島に映画カフェを開いたオーナー。映画にちなんだ月替わりの本棚も人気だ。それは、自分を支えてくれた映画への恩返し。自分を迎えてくれた佐渡への恩送り。

新潟県佐渡市相川上京町 11 [Tel] 0259-67-7644 [営業日時] 10時～16時 / 定休日 月・火曜 *日曜日は上映時間による 両津港から車で約65分



おいしいドーナツ タガヤス堂

繰り返すことの中から生まれる、
こたえを探して。

ふわふわの食感と優しい甘さ。誰もが「懐かしい」と表現するこの味を求めて、島中から人がやってくる。日々の気温の変化、水の温度、ひとつひとつにきちんと向き合いたいから、欲張らずに、作る味は2種類のみと決めた。シンプルだからこそ、丁寧に。飾らないものづくりが、懐かしさにつながっているのかもしれない。

新潟県佐渡市羽茂大崎 1566-3 [Tel] 070-5266-2738 [営業日時] 10時～18時 (冬季は16時まで) ※売り切れ次第終了 / 定休日 火・水曜日 小木港から車で約30分



竹細工職人 数馬昭男・佳子

道を作り、道を歩き、道をのこす。

「いい加減にやっているだけだっちゃん。」そんな風に笑いながらも、傍には丁寧に書かれた商品の設計図やオリジナルの型が置かれていた。島で53年もの間、この道一本で生きてきた職人、数馬昭男さん。竹細工を作ることは、生きることそのものだった。大切なものを守るために歩き続けたその道が、唯一無二の軌跡を残している。

新潟県佐渡市小木町 604 [Tel] 090-5403-2235 小木港から徒歩で約20分
※店舗ではなく仕事場になります。




焼菓子ヒガナ

灯火のような、水面のような、
ゆらゆらとしたバランスで。

多すぎもせず、少なすぎもせず。遠すぎもせず、近すぎもせず。この地域に移り住んだ店主が営む、町の小さな焼き菓子店。新しい人たちから譲り受けたものばかりという店内の古道具の家具たちは、何年もの月日を経て、店主が作り出す空間にピタリとはまり、また息をし始めている。その空間、焼き菓子の香り、店主の暮らしのリズム。そのゆらぎ、そのすきま。一定でないから美しい。

新潟県佐渡市小木町 410 [Tel] 0259-67-7895 [営業日時] 13時～18時 / 定休日水曜日、第2・第4木曜日 小木港から徒歩で約15分



その周りの空気を止めてしまうかのように、
凛と美しくたつ数馬さんの花かご。
200年前に使われていた竹を山の砂で磨き、
さらに透けるほどの薄さに竹を割り出し、編みあげていく。
昭男さんと、昭男さんを支える佳子さん、
ご夫婦二人の温かな手から生み出される竹細工は、
星空のように、海のように、雪のように、美しい。



佐渡島 南書店

全部ない。
だから、「あるもの」が見える。

日本一大きな島の、たぶん、日本一小さな本屋さん。佐渡での暮らしに沿う本、佐渡にゆかりのある人たちの本など、佐渡の人たちを向いた本が並ぶ。そこには、インターネットで買えるような「全部」はないけれど、「全部」の中では埋もれてしまったかもしれない「ここにしかない」がある。世界を広げるのは、自分自身。その入り口は、どこにだって、誰にだって、いつだって。

新潟県佐渡市小木町 232 (日和山カフェ内) [Tel] 0259-86-3550 [営業日時] 10時～17時 / 土日祝日をメインに週4日程営業 小木港から徒歩で約10分



尾畑酒造

時を刻む音が聴こえる家

「一年」。酒造りの時間のものさしだ。人がどんなに急いでも、人がどんなに焦っても、「一年」。雄大な自然の、命の流れが酒造りにはある。120年以上愛され続け、求められ続ける味を守るために、おだやかに革新を続ける手仕事の現場を覗くと、そこは、命が生まれる静かな「音」で溢れていた。

新潟県佐渡市真野新町 449 [Tel] 0259-55-3171 [営業日時] 8時～17時 / 年中無休 酒蔵見学料：無料 両津港から車で約30分



- 古民家宿 -
伝泊・佐渡
ぐるり竹とたらい湯の宿 カネモ
そばにいる。

築100年を超える古民家宿。「いらっしゃいませ」ではなく、「お邪魔します」と入ってくる地域の方々が、この宿のコンシェルジュ。お茶を持って、お漬物を持って、寒くないかと心配をしに、朱色の暖簾をくぐって代わる代わる訪ねてきてくれる。その暖簾が揺れるのが、待ち遠しくて、愛おしい。あ、また暖簾が揺れた。

新潟県佐渡市松ヶ崎 1006 [HP] <http://den-paku.com/sado> 両津港から車で約 50 分



- ゲストヴィラ -
On the 美一

「ないこと」の自由

気持ちいい風が吹いただけ。美味しいお酒があるだけ。星が綺麗なだけ。好きな人が笑っただけ。今、目の前のこのひと時だけに集中して、その十分すぎる幸せをたっぷり味わうのにちょうどいい、シンプルな海辺のヴィラ。この島にはないものもたくさんあるけれど、それって案外、自由だ。自由な時間を使って、真っ白なキャンパスにどんな色を塗ろう。

新潟県佐渡市河原田諏訪町 207-76 [Tel] 0259-58-7077 両津港から車で約 45 分



裂織り

心と時間を編み直す。

静かな山中から、
小気味よく響く織り機の音。
自分のリズムを取り戻させてくれるように、
木々の間から響いてくる。
古着や古布を使って織り出す裂織りは、
どんな模様に編み出されるのか、
織ってみなければわからない。
答えを決めずに、ただ淡々と繰り返す作業。
わからないことを楽しみにできること、
ゆだねること、そんな自由が嬉しい。

日日は好日

今を生きること。
自分を愛すること。



T&M Bread Delivery Sado Island
Marcus & Tomoko

「営業は週に2日、金曜日と土曜日だけ。ネットでは半年待ちのパン屋がある。そんな話を聞いて、興味を持たずにはいられるはずもなく、「会いに行かせてください」と連絡すると、招かれたのは、お店ではなく、ご自宅でした。

途中何度も道に迷い大幅に遅刻してしまった私たちを、大変だったねと笑い飛ばし、大きな笑顔で迎えてくれたのは、噂のパン屋『T&M Bread Delivery Sado Island』のマーカスさんと智子さんご夫妻。

廃校になった学校の理科室からもらってきたというビッグテール。お酒好きのマーカスさんが飲んだワインの空き瓶でカラフルに装飾されたランプ。丁寧に住み継がれてきたことがわかる、ピカピカの床。

そこにあったのは、丁寧なだけではない、遊び心やしなやかさが見える「満ち足りた暮らし」でした。



今を生きているから、つくれる味がある。

T&M Bread Delivery Sado Islandのパンには、季節があります。季節の流れに素直に、その時期に体が欲する無理のない素材や天然酵母を使ってつくる、その時期にしか作れないパン。一口食べて驚く、というよりは、体のどこかが覚えている懐かしさがあった、また一口、また一口、と食べ進めてしまつて、気付いたらなくなつていて、「あ、また買いに行かなくちゃ。」と思うような味。

アメリカのマクロビオティックのカフェでベーカリーとして働いていたこともある智子さん。天然酵母、マクロビオティック：と聞くと、作るパンはハード系のパンがメインかと思いきや、ソフトなタイプのパン、パイ生地のパン、調理パン、ハード系のパンなど、ジャンルは様々。自分たちが心から作りたいものを作るのももちろん、佐渡のお客様が「美味しい」と食べてくれるパンを作ることも、大切に使っています。

今、この季節に。今、この場所。今、目の前にいる人のために。今、心の芯で感じることを。

今、二人の視線は、いつも「今」に向いています。今を見ているからこそ、季節の美味しいを逃さない。今を見ているからこそ、自分たちを支えてくれるお客さんの声が聞こえる。「先々のことを想像して、不安になつても仕方がない。あんまり遠くを見ずに、今目の前のことをやっていくの。遠くを追いかけると大変じゃない？近いところのよ。今幸せなこと、今美味しいもの、今できることを考える方が楽しいでしょ！」智子さんはとっても軽やかにそう教えてくれました。そうか、答えはとてもシンプルなんだ。

T&M Bread Delivery Sado Islandのパンは、「今」を大切に生きる二人にしか作れない、そして、「今」しか出会えない、一期一会の味でした。

day to day



庭で野菜を育て、その野菜で食事を作つて、日が沈んだら思い出がたつぷり詰まつたテーブルで二人並んでごはんを食べる。日が昇ると庭の手入れをして、気になつてきた竹やぶを整理。そうだ、キッチンの戸棚も直したかつたんだ、と思い出して修理する。食事を作る。そして週末には、朝2時に起きて、二人一緒にパンを焼く。また朝が来る。二人の、日々。

マーカスさんと智子さんは、約30年前、佐渡の風景と豊かな食に感動し、当時まだ2歳と3ヶ月だった二人のお子さんを連れて、縁もゆかりもなく、頼る人ももちろんいなかった佐渡へ移住しました。

佐渡に着いて、野菜が必要だったから、畑を作りました。空き瓶があったから、ランプを作りました。子供には大きな声で笑ったり歌ったりして欲しかったから、丘の上に家を構えました。おいしいパンが食べたくなつたから、パンを作りました。

パンも、野菜も、ランプも、家も、暮らしに合わせて、必要なものを作ってきたマーカスさん一家。じつくり、自分たちの歩幅で、心地いいスピードで。たくさんの情報に溢れ、ものすごい速さで世界が変わり、迷子になつてしまふような社会の中で、そんな風にならぬに暮らしを作り続けてこられたのはきつと、自分たちにとつての「ちょうどいいバランス」を常に心に問い続けてきたから。

夜遅くまで働いて、家族との時間が短くなつて、それって幸せ？
作り手のわからない食べ物や疑問もなく食べて、それって幸せ？

今日の天気は携帯電話が教えてくれるけど、それって幸せ？
当たり前をいつの間にか忘れて、どこに向かつて、どうしてそんなに急いでいるの？

なんでもないこと。

佐渡島

季節の厳しさの中にこそある本当の幸せな風景を見つけ、
不便さの中に「あるもの」を生かして暮らし、
非効率だからこそ築ける豊かな関係性をもち、
静かに革新を続ける手仕事を繰り返す。

旅先で出会ったのは、そんな、まるでなんでもないような、あたり前にある日々の幸せ。
「なんでもないこと。」が、今日もあなたの隣にありますように。

ルミネは、魅力溢れる日本の地域との
ステキな出会いをつなぐプロジェクト「旅ルミネ」を企画運営しています。
HP: <http://www.lumine.ne.jp/kokolumine/tabillumine/>

旅ルミネ
たびるみね
TABI-LUMINE

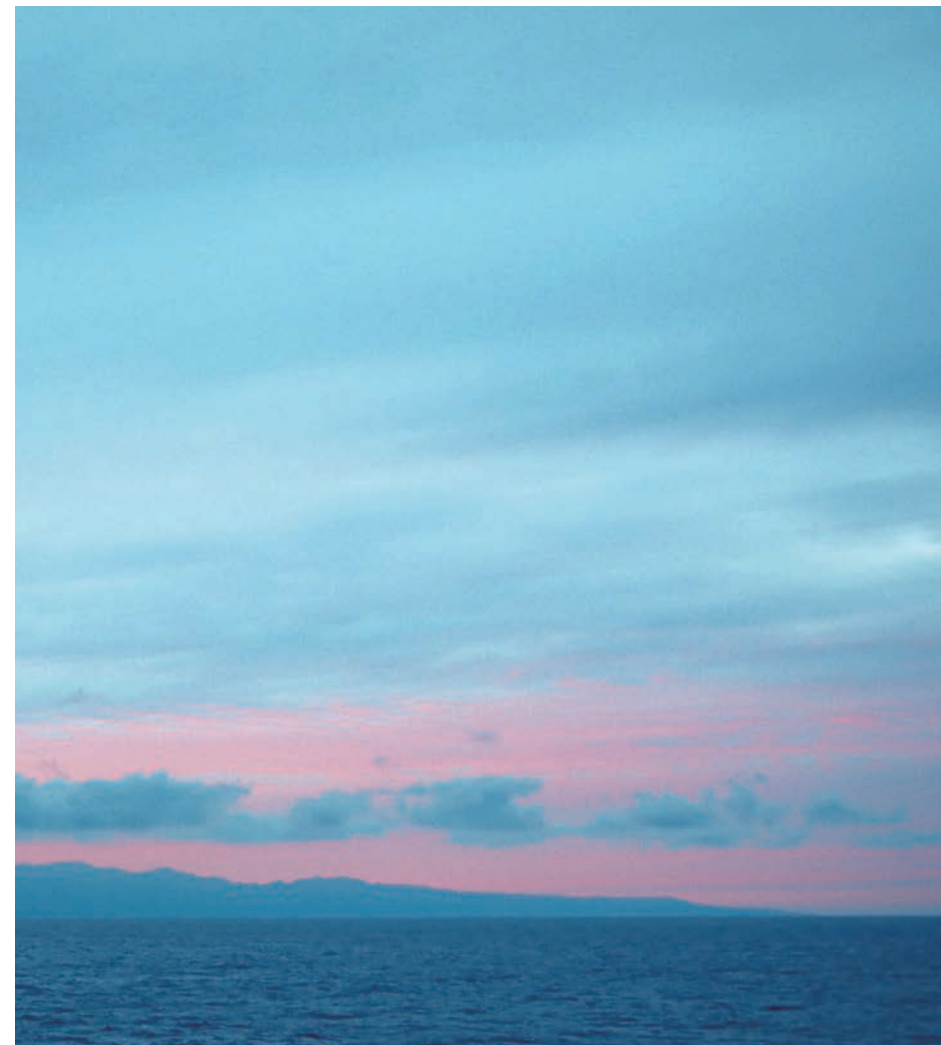
発行元：株式会社ルミネ
企画と編集と執筆：編田博子
アートディレクション、デザインと撮影：黒野真吾
コーディネート：SCRAP PAGES
発行日：2018年3月1日

【佐渡島までのアクセス】

東京都内はじめ関東・首都圏から佐渡へは、
「上越／北陸新幹線」や「関越／北陸自動車道」を利用し、
新潟県内の港（「新潟港」「寺泊港」「直江津港」）
を経由して佐渡の港へ渡ることができます。

<参考>東京～新潟
新潟港までの目安です（おおよその乗継時間を含みます）。
[上越新幹線] 約2.5時間
[成田空港] 約2時間
[車] 約4～5時間
[高速バス] 約5～6時間

新潟～佐渡島（両津航路を利用した場合）
*「新潟港」⇄「両津港」ルートが一番運航本数も多く、
ジェットフォイルは65分（1日5～7便程度）、
フェリーは2時間30分（1日5便程度）で渡ることができます。
※悪天候で運休する場合もあるので、お出かけになる前に船会社にご確認ください。



T&M Bread Delivery Sado Island

新潟県佐渡市羽茂本郷 634-2
[Tel] 090-3064-2880
[営業日時] 金・土曜日のみ
冬季(12月～3月) 8:30～18:00
夏季(4月～11月) 7:30～18:00
小木港から車で約15分

佐渡が教えてくれたこと
ここには、何でもそろそろ大きな
スーパーマーケットやデパート
はありません。でも、野菜は家
の庭からいつだって新鮮なもの
が採れ、立派な魚も知り合いが
届けてくれます。
家の周りは人も家も少なく、ま
ぶしく輝くネオンはありません。
でも、おかげで外の風景が
よく見え、時計がなくなつて、
時間の流れが分かります。
智子さんは、こんな風に教えて
くれました。
「佐渡での暮らしは、不便なこ
とはあるけれど、『足りないも
のではない』わよ。」